

保健学習の内容に関する要望 —女子大学生を対象にした調査から—

松 本 裕 史, 中 西 匠
(武庫川女子大学文学部健康・スポーツ科学科)

Desires for Content of School Health Education among Female University Students

Hiroshi Matsumoto, Takumi Nakanishi

*Department of Health and Sports Sciences, School of Letters,
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

Abstract

The purposes of this study were to investigate the desires for content of school health education among female university students. Two hundred and thirty three Japanese women's university students participated in this study. They were asked about their elementary school health education, junior high school health education, and high school health education. The results indicated that participants think that learning with early time is more desirable as for the curriculum of "pregnancy and contraceptive-focused sex education", "infection disease and sexually transmitted diseases", and "lifestyle-related diseases" rather than a parents thinks. The results offer additional evidence for the content of school health education by survey among female university students.

Keywords: School Health Education, Female University Students, Desires, Curriculum

緒 言

近年、少子高齢化の進行、情報化社会の進展、ライフスタイルの変化など児童・生徒を取り巻く環境は、複雑で多様化している。このような社会環境の変化は、児童・生徒の身体活動量の低下、ストレスの増大、人間関係の希薄化、食生活の悪化などを招き、児童・生徒の心身の健全な発育・発達に悪影響を及ぼす可能性が大きいと考えられる。各学校では、児童・生徒の健康問題に対処するとともに、将来の健康生活を送る能力の基礎を作ることがより一層求められている。

学校教育における保健学習は、学校における健康教育の中核であり、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることを目標としている。現在、保健学習は、小学校3年生から高校2年生までの9年間行われており、各校種、各学年の授業において、9年間の見通しを持って指導を展開することが求められている¹⁾。学習指導要領には、子どもたちの発育・発達に応じた具体的な内容が記され、9年間の系統的学習が進められるように構成されている^{2), 3), 4)}。

しかしながら、保健学習のすべての内容が必修として位置づけられているにも関わらず、学校における保健学習の内容の実施程度は十分とはいえない。保健学習推進委員会が教師を対象に行った保健学習推進上の課題を明らかにするための実態調査によると、保健学習の内容の実施程度は、「ほぼ予定どおり」と回答した割合が小学校 65.4%, 中学校 50.9%, 高校 67.5%で、いずれも低率を示した⁵⁾。このように、学校現場では保健学習のすべての内容の実施が徹底されていない現状を踏まえると、どのような内容を重視して教育するかという手掛かりとなる情報は、社会環境の変化に適応し、効果的な教育を行

う上で貴重な基礎資料になりうる。

そこで、本研究では、教職科目を履修する女子大学生を対象に保健学習の内容に関して、過去を振り返り、どの時期に、どのような内容を教育して欲しかったかという要望を調査する。その結果と保護者に対する調査結果⁵⁾と比較し、今後の保健学習の実施に有益な知見を得ることを目的とする。

方 法

調査対象

近畿圏の女子大学および女子短期大学健康スポーツ系に在籍する教職科目を履修している女子大学生 235 名を対象に調査を行った。質問項目に記入漏れや記入ミスがあったものを除外し、233 名(有効回答率 99.1%)を分析対象とした。

手続き

質問票は、授業時間の一部を利用して、調査者から調査対象者に直接手渡され、集団法によって実施した。調査期間は、200X 年 6 月 1 日から 6 月 28 日であった。

調査内容

質問票は、保健学習推進委員会⁵⁾が行った「保健学習推進上の課題を明らかにするための実態調査」における保護者調査の項目を参考に作成した。その調査での保健学習の内容に関する要望の質問は、学習指導要領に則って、保健学習の内容を、①健康の考え方・大切さ、②食生活、③運動習慣、④睡眠などの休養、⑤体の発育・発達、⑥思春期の体の変化、⑦妊娠や避妊法、⑧感染症、⑨生活習慣病、⑩むし歯や歯周病、⑪喫煙・飲酒・薬物乱用、⑫けがの防止、⑬交通安全、⑭応急手当の意義、方法、⑮不安・悩み、ストレス、⑯環境と健康、⑰食品の安全、および⑱保健・医療機関の 18 項目に分類し、「学校でぜひ教えてほしい」、「学校で、できれば教えてほしい」、および「学校で、教えてもらう必要はない」の 3 件法で評価する方法であった。本研究の調査票は、これらの 18 項目の分類を採用し、ぜひ教えて欲しかった時期を小学校 5 年、中学校 1 年、高校 1 年、高校 3 年の学年として、当てはまるところに丸印を付けるように求めた。なお、上記の 4 つの時期は、比較を行うために保護者調査と同様とした。また、18 項目の内容以外に、ぜひ教えてほしい内容がある場合、自由記述するように指示した。

結果および考察

本研究では、教職科目を履修する女子大学生を対象に保健学習の内容に関して、過去を振り返り、どの時期に、どのような内容を教育して欲しかったかという要望を調査し、今後の保健学習の実施に有益な知見を得ることを目的とした。保健学習推進委員会⁵⁾が保護者を対象に行った調査では、特に要望が高い学習内容として、「学校でぜひ教えてほしい」の回答率が 60%を超えた項目は、「喫煙・飲酒・薬物乱用」(76.3%)、「思春期の体の変化」(75.2%)、「体の発育・発達」(72.5%)、「感染症」(69.9%)、「妊娠や避妊法」(66.7%)、「健康の考え方、大切さ」(66.1%)、「応急手当の意義、方法」(64.1%)、「不安・悩み、ストレス」(60.5%)であったと報告されている。

Table 1 に女子大学生における学年別の保健学習の内容に関する要望の結果を示す。女子大学生が他の学年と比較して、小学校 5 年時にぜひ教えてもらいたかったと回答した保健学習の内容は、むし歯や歯周病、けがの防止、および交通安全であった。次に、中学校 1 年時は、健康の考え方・大切さ、食生活、運動習慣、睡眠などの休養、体の発育・発達、思春期の体の変化、喫煙・飲酒・薬物乱用、および不安・悩み、ストレスであった。高校 1 年時では、妊娠や避妊法、感染症、生活習慣病、応急手当の意義、方法、環境と健康、および食品の安全であった。最後に高校 3 年時は、保健・医療機関に関する内容のみが他の学年と比較して、最も要望する割合が高かった。これらの結果は、現行の学習指導要領で示されている各学年の学習内容とほぼ合致している。保健の学習内容は、女子大学生による要望と各学年においてある程度望ましい時期に教育されているといえよう。

保健学習の内容に関する要望

Table 1. 女子大学生における学年別の保健学習の内容に関する要望―「ぜひ教えてほしい」の回答率―

	小学5年	中学1年	高校1年	高校3年
①健康の考え方・大切さ	46.4% (70.8%)	<u>47.6%</u> (66.1%)	24.0% (62.6%)	9.9% (64.9%)
②食生活	41.6% (58.8%)	<u>44.6%</u> (55.8%)	24.5% (54.6%)	11.6% (57.3%)
③運動習慣	40.8% (53.8%)	<u>48.1%</u> (50.9%)	26.6% (49.9%)	11.2% (51.6%)
④睡眠などの休養	36.5% (51.5%)	<u>40.3%</u> (49.2%)	29.2% (47.5%)	9.9% (48.6%)
⑤体の発育・発達	44.6% (78.8%)	<u>55.8%</u> (75.5%)	12.9% (67.3%)	2.1% (68.1%)
⑥思春期の体の変化	38.6% (80.1%)	<u>64.8%</u> (77.5%)	13.3% (71.3%)	4.3% (71.4%)
⑦妊娠や避妊法	4.3% (60.7%)	48.1% (67.6%)	<u>56.7%</u> (69.1%)	18.0% (69.6%)
⑧感染症	3.0% (63.5%)	41.2% (70.9%)	<u>56.2%</u> (72.0%)	21.5% (73.3%)
⑨生活習慣病	16.7% (55.4%)	38.2% (57.8%)	<u>39.9%</u> (58.3%)	26.2% (61.1%)
⑩むし歯や歯周病	<u>83.3%</u> (59.8%)	17.2% (51.2%)	9.0% (48.0%)	6.0% (50.4%)
⑪喫煙・飲酒・薬物乱用	12.0% (72.1%)	<u>54.1%</u> (78.3%)	46.8% (77.8%)	22.3% (77.3%)
⑫けがの防止	<u>64.4%</u> (49.2%)	30.5% (42.2%)	15.5% (40.9%)	6.4% (42.5%)
⑬交通安全	<u>87.1%</u> (60.6%)	12.0% (43.8%)	8.2% (40.9%)	4.3% (45.1%)
⑭応急手当の意義、方法	6.9% (61.2%)	31.3% (65.0%)	<u>50.2%</u> (64.4%)	32.6% (65.9%)
⑮不安・悩み、ストレス	12.4% (59.1%)	<u>47.2%</u> (62.3%)	46.8% (60.2%)	29.6% (60.6%)
⑯環境と健康	17.6% (44.7%)	31.8% (42.3%)	<u>38.6%</u> (42.2%)	18.5% (45.4%)
⑰食品の安全	19.7% (44.3%)	32.6% (42.1%)	<u>42.9%</u> (44.1%)	24.9% (48.6%)
⑱保健・医療機関	2.6% (35.1%)	15.0% (35.9%)	35.6% (40.1%)	<u>55.4%</u> (44.0%)

※下線は、4つの学年中最も回答率が高い数値を示す

※括弧内は、保護者調査(日本学校保健会, 2005)のデータを示す

Table 2. 女子大学生における保健学習の内容に関する要望についての自由記述

小学校5年生
○食生活のことについて、もっと詳しく教えてほしかった。現在の小学校は肥満児とか増えているから、食生活と平行して適度な運動も教えてほしい。
中学校1年生
○インターネット、メールの犯罪
○中学生から給食がなくなり、お弁当の学校が多く、食生活が偏ってくる時期である。食生活や食品の安全等の内容について、もっと教えてほしかった。
○部活を始めだす頃なので、睡眠や食生活などについて。
○携帯電話の危険性
○いじめなどが起こりやすいので、命の大切さや、悩みや不安の対処方法
○ダイエットの危険性
高校1年生
○スポーツ障害
○テーピングの巻き方やマッサージについて。
○妊娠、避妊(実際私の知り合いも高3に妊娠して高校を辞めている。だからこそしっかり教えることが大切)
○応急手当はあまり実践的に教えてもらえなかったの、もっと教えてほしかった。
○部活で疲れている時期なので食生活や怪我の防止を教えてほしかった。
高校3年生
○受験などで睡眠が少なくなるから、休養の大切さを知りたかった。
○受験などがあり、精神的に不安定になるので、不安、悩み、ストレスについて詳しく教えてほしかった。
○子供の育て方、家族について
○介護などの仕方

次に、学年別の保健学習の内容に関する要望を本研究での女子大学生に対する調査結果と保健学習推進委員会⁵⁾が保護者に対して行った調査結果で比較した。その結果、特に差が見られた学習内容は、高校3年時における妊娠や避妊法、感染症、生活習慣病であった。これらの内容は、女子大学生の要望が30%以下であるのに対して、保護者の要望が60%以上と数値に大きな開きがあった。近年、わが国では、初交年齢の低下⁶⁾、若年者の性感染症の増加⁷⁾や肥満傾向児の増加⁸⁾が報告されており、高校卒業から間もない女子大学生はその状況を肌で感じていたと考えられる。よって、保護者が考える時期より早い時期でこれらの内容を学習する必要があると感じていると思われる。

Table 2 に女子大学生における保健学習の内容に関する要望について自由記述をまとめた。自由記述では、学年ごとに特徴的な回答がみられた。中学1年時の内容に関する要望では、「インターネット、メールおよび携帯電話」に関する内容が多かった。高校1年時の内容に関する要望では、「部活」に関連する内容や「応急処置」に関する内容が回答されていた。高校3年時の内容に関する要望では、「受験における心身の健康」に関する内容が散見された。これらの自由記述には、保健学習以外の教科で取り上げられている内容もある。しかしながら、それぞれの学年で特徴的な回答のまとまりが見られたことは、児童・生徒が学校生活の中で起こりうるライフイベントを適切に乗り越えていく知識やスキルを身に付ける教科として、女子大学生が保健学習の重要性を認識していると考えられる。

最後に今後の課題を述べる。まず、本研究は健康スポーツ系の学生のみ結果であり、調査対象となった人数も少ないことから、本研究から導き出された結果を一般化するには限界がある。今後はさらに対象者を増やして調査することが必要である。次に、今回の調査は、保健学習推進委員会⁵⁾が行った調査を参考に、ぜひ教えて欲しかった時期を小学校5年、中学校1年、高校1年、高校3年の4学年に分けて回答させた。現行の学習指導要領では、授業形式による保健学習は高校3年時に履修することになっていない。よって、対象者の回答に混乱が生じたかもしれない。これらの点が今後の検討課題となるだろう。

謝 辞

本研究を実施するにあたり、ご協力いただきました学生の皆様に、記して感謝の意を表します。

文 献

- 1) 神奈川県立体育センター、「保健学習の指導上の課題に関する研究」—小・中・高等学校の9年間を見通した指導を目指して—, 平成18年度県立体育センター研究報告書, 神奈川。(2006)
- 2) 文部科学省, 小学校学習指導要領, (1998)
- 3) 文部科学省, 中学校学習指導要領, (1998)
- 4) 文部科学省, 高等学校学習指導要領, (1999)
- 5) 保健学習推進委員会, 保健学習推進委員会報告書—保健学習推進上の課題を明らかにするための実態調査—, 日本学校保健会, 東京。(2005)
- 6) 日本性教育協会, 「若者の性」白書—第6回青少年の性行動全国調査報告—, 小学館, 東京。(2007)
- 7) 宮内文久, 大塚恭一, 南條和也, クラミジア性器感染症の若年女性における拡がり, 産科と婦人科, 74, 1680-1683. (2007)
- 8) 日本学校保健会, 平成18年度児童生徒の健康状態サーベイランス事業報告書, 日本学校保健会, 東京。(2008)